

デジタル・情報活用能力を測定する CBT の分析

北澤 武

東京学芸大学／教育テスト研究センター

本研究は、デジタル・情報活用能力を測定する CBT「P プラス デジタル・情報活用力検定（株式会社ベネッセコーポレーション）」について、中学生用 CBT（以下、コア）は 29 名、高校生用 CBT（以下、ベーシック）は 28 名の大学生に実施した。その後、CBT の出題領域に関する自己効力感を質問紙で問い、正答率との相関関係を分析した。その結果、コアとベーシックの両者とも「問題を解決するときに、ものごとを単純化して図化したり数式に表したりすることができる」の認識と「データサイエンス」や全体の正答率に相関関係が認められることを明らかにした。

キーワード：CBT（Computer Based Testing）、デジタル・情報活用能力

参考文献

北澤武，牧野直道，海瀬真歩，宮和樹，松尾春来，長尾凜，岡本和之（2021）デジタル・情報活用能力に関する CBT の正答率と自己効力感の関連分析．日本教育工学会 2021 年春季全国大会（第 38 回大会）講演論文集，pp. 307-308